

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和2年 3月16日

事業所名 クリーンねっと若狭（愛称：すきっぷ）

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○				
	2	職員の配置数は適切である	○			法人内で応援体制を組んで対応している。	実際は適正な配置数の職員でも見切れないことが多いため、実情に合った支援体制を組めるよう、短期雇用も含めて調整している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			持ち運び可能なスロープを活用。トイレに手すりを設置。	トイレで手すりを必要とする児童の利用にともない、手すりを設置した。今後も利用する形態に合わせて改善を加えていく。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			改善案を全員で吟味して実行している。	改善に準備や時間を要するものは優先度の高いものから迅速に対応していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○				令和2年1月にアンケートを配布。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			法人内の別施設の情報も同時に公開。	平成31年2月から公開。 令和1年度は令和2年3月に更新。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		現在第三者による外部評価は取り入れていないが、見学等意見を得る機会があれば改善につなげていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			職員全員で各種研修に臨んでいる。	事業所連絡会の定期研修等、有用な研修は、可能な限り職員全員が参加していく。
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○				アセスメントの様式を適宜改善している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		ツールは固定していない。	性格や強みがより分かりやすく、共有しやすいツールを作り、標準化させていきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			職員全員で話し合っ立案している。	職員体制上、会議が不定期になっており、定期的に開催できる体制を整えていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			常に新たな活動を取り入れている。	新たな所外活動の場を開拓していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			利用時間に応じて異なった活動、課題を設定している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			子どもの状況、過ごす時間によって計画を作成している。	家族支援、地域支援をどのように計画に盛り込めるかが課題。本人、家族に寄り添える計画づくりを目指す。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			利用人数が多い時は、役割等をまとめた資料で、打ち合っている。	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			記録をまとめながらミーティングをしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			日々の記録と支援に関する記録を取り、情報共有している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			長期休暇前に期間調整して見直している。	長期休暇のみ利用される児童の場合、変化がとらえにくいので、学校や他機関での様子も情報共有できるようにしていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	○			外に出る機会を多く作れるよう意識している。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			可能ならば職員全員が参加している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			下校時刻の確認、利用予定の提供などに特に気を配っている。	今後、関わる学校の数が増えることが予想されるため、適切に対応できるように送迎体制や車両整備を検討している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		保護者を通じて医療情報は得ている。	現在はケアが必要な子どもはいないが、今後は必要に応じて、必要な連絡体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			必要に応じて関係機関の事前見学等を行っている。	今後も新規利用時に必要な情報等は共有できるように相談支援と連携していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		有効な支援方法等の情報を伝えている。	まだケースは少ないが、今後も必要に応じて情報共有していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		事業所連絡会等を通じて研修等に積極的に参加している。	今後も必要に応じて連携できる機関を増やしていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○		特定の機関との交流はないが、長期休暇中の所外活動では同じ場所で遊ぶ機会がある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			積極的に参加している。	
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳でのやり取りに加え、必要なことは送迎時にも伝えている。		

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		不適切行動の対応方法など、有効的なことは伝えている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			利用契約時に必ず伝えている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○		保護者会は組織していないが、必要な情報は保護者間で共有できるように橋渡しをしていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			要望には可能な限り迅速に対応できるようにしている。	人員体制等運営上の都合でニーズをかなえられないこともあるため、長期的に改善できるように目標を立てていきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		定期的ではないが必要情報は発信している。	ホームページでの情報発信を強化していきたい。
	35	個人情報に十分注意している	○				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			それぞれに合った視覚支援等を活用。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○		行事を企画できる施設規模はまだないので、今後の事業拡大状況に応じて検討していく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○			各種マニュアルは作成済であるが、感染症対応についてはまだ周知研修を実施していないため、今後対応予定。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年に1回以上訓練を計画している。	長期休暇中等、利用する児童が多い時に訓練できていないので、今後検討していきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			県の研修の伝達を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			どうしても必要な場合は十分に説明、了解を得た上で計画に記載している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			現在ははないがアレルギーは必ず確認している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		ミーティングにより共有。	事例集は作成していないので、振り返りができるように気づいた点はピックアップできるようにまとめていく。